

## J-5 人工呼吸器の安全管理の諸問題と対策

名古屋第一赤十字病院 救急センター

渡辺美佐子

医療機器に関する事故には、  
①器械・機器の誤作動、②器械・機器の不備によるけが、③器械・機器使用時の不注意、④モニターの見落とし、判断ミス、⑤器械・機器のアラームの対応方法の間違い、⑥人工呼吸器装着患者の挿管チューブの自己抜去などがある。

当院では、医療機器の点検・整備は中央化されたME部門で行なっている。

人工呼吸器に関するトラブルは、加湿器に関連するものが多くみられるが、機器自体のトラブルというよりは使用者側に問題のある場合が多い。具体的には、①加湿器のアラームやスイッチの取り扱い不十分、②気道内圧アラーム設定の下限アラームの理解不足とアラームへの不適切な対応、③輸液ポンプなどの器械使用時の単独電源使用の不徹底や漏電・ショート対策不足が上げられる。器械・機器のアラームの知識を理解し対処方法を習得し、判断できない時は相談するシステムが必要である。

当院では、現在コンピュータ2000年問題への対応策を「Y2K」組織体制を全病院的に編成し、危機管理対策として取り組みを実施している。

診療部門・看護部門・管理部門に分かれ、医療用具・医療設備・医療情報システム別に業者との確認作業と、問題の予測される医療機器のリストアップを行ない、機器の安全度表示を準備し、危機管理マニュアルを部門毎に作製している。

優先医療機器としては、人工呼吸器・患者監視装置・ベッドサイドモニタ・輸液ポンプが誤作動のおそれがあると想定し、医療機器のテスト・トラブル発生から復旧までの予行演習、動作確認を実施する必要がある。

人工呼吸器は、成人用38台、小児用10台をME管理している。

シュミレーションの実施については、救急部門を中心に災害発生による医療救護活動と待機職員の訓練への参加を計画している。指揮命令系統の統一と報告のシステム化が課題である。